

```

\usepackage{amsthm}
\newtheoremstyle{mystyle}% % Name
  {}% % Space above
  {}% % Space below
  {\normalfont}% % Body font
  {}% % Indent amount
  {\bfseries}% % Theorem head font
  {}% % Punctuation after theorem head
  { }% % Space after theorem head, ' ', or \newline
  {}% % Theorem head spec (can be left empty, meaning 'normal')
\theoremstyle{mystyle}
\newtheorem{theo}{定理}[section]
\newtheorem{defi}{定義}[section]
\newtheorem{lemm}{補題}[section]

```

1 A

定義 1.1 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 1.1 直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

証明 ピタゴラス □

定理 1.1' $x^2 + y^2 = z^2$

補題 1.1 三角形 PAB の頂角 P およびその外角の二等分線と辺 AB およびその延長との交点を,CD とし, CD の中点を O とすれば, OP は三角形 PAB の外接円に接する。

定理 1.2 直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

定理 1.2' 三角形 PAB の頂角 P およびその外角の二等分線と辺 AB およびその延長との交点を,CD とし, CD の中点を O とすれば, OP は三角形 PAB の外接円に接する。

2 B

定義 2.1 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 2.1 直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

補題 2.1 三角形 PAB の頂角 P およびその外角の二等分線と辺 AB およびその延長との交点を,CD とし, CD の中点を O とすれば, OP は三角形 PAB の外接円に接する。